

平成28年度 松江農林高等学校 学校評価表

経営目標	重点目標	目標達成のための方策	評価指標 【アンケート項目】	目標値	アンケート結果			教員 評価	外部 評価	主な取り組み	達成状況	今後の方向性、課題及び改善策
				肯定的 評価割合	生徒 (%)	保護者 (%)	総合 評価					
生徒一人一人のマナー・規範意識を高めることで、自他の人権を尊重しあう豊かな人間関係の形成支援に努める。	①明るい校風づくり、マナーアップ指導の充実により、よりよい学校文化の醸成（適切な挨拶、言葉づかい、きちんとした制服着用、情報マナー、時間管理、掃除の徹底）	・各教室等の整理整頓状況の確認 ・交通安全、挨拶、遅刻防止のための登校指導、鍵かけ運動の実施 ・健康作りの自主的取り組みの推進 ・S・Cの効率的活用や教育相談委員会の効果的機能 ・いじめに関するアンケートの実施と早期発見、早期解決に努める ・実験実習による安全管理と整理整頓されている環境づくり	服装・髪型のルールが守られ、挨拶がよくおこなわれるはつらつとした雰囲気のある学校だと思いますか。	90%	87.8	89.7	B	B	A	・登校指導 ・教室、廊下の整理整頓チェック ・ふるまい向上頭髪服装指導 ・各種健康診断後の個別指導 ・学年集会、HR指導 ・環境改善リーダーの育成 ・チームでの取り組みを重視 ・ネットパトロールを活用した情報モラルの育成 ・鍵かけ甲子園の参加	・登校指導によるあいさつの励行や明るい雰囲気のある学校づくりに効果があったが、2学期以降遅刻者が増加したこともあり一部の生徒にルーズな面が見られた。 ・教室内外の教育環境の整備については全体として著しく改善された。 ・保健委員会の活動は活発に行われるようになった。 ・情報モラルの向上については昨年度より不適切な書き込みは減少した。 ・多くのクラスで出席率が、99%以上となった。 ・自転車の施設率が昨年より高くなり、自転車事故も減少した。	・登校指導におけるあいさつの励行、交通安全指導は継続して行い、明るい校風づくりをさらに進める。 ・マナーの向上に向けて教員間での意思統一を図り、どこでも誰でも同じ指導ができるようにする。 ・情報モラルについては継続して指導することが必要で、特に保護者も含めた意識の向上が不可欠である。 ・生徒会の各種委員会の積極的な活用により、マナーアップの向上と生徒の自治意識の高揚を図る必要がある。
	②生徒の実態に即した人権同和教育の推進及び道徳教育を位置づけた授業の展開	・各校務分掌が連携した人権同和教育の推進 ・人権教育、道徳教育、特別支援教育的視点を入れた授業の実施（各教員、学期に1回実施） ・諸活動を通して人権意識を高め豊かな人間形成の育成に努める	教員や生徒の言葉で、不愉快な思いをするような場面はないと思いますか。	80%	74.4	82.9	B	A	A	・人権同和教育年間指導計画の作成 ・各学年の担当者として、学期に1回の人権同和教育HR活動の実施 ・生徒、教員の研修会の実施 ・人権同和教育、道徳教育的視点での授業実践	・人権同和教育についての統一HR活動は改善されて実施できた。 ・いじめに関するアンケートの実施。教職員研修（人権同和教育、ハラスメント）の実施。3年生対象の講演会を実施。 ・学校教育活動の様々な場面で人権教育、道徳教育等の視点を踏まえた取り組みが実践できた。	・アンケートQ Uを活用した生徒理解、学級づくりを進めるとともに、人権同和教育、道徳教育を学校の教育活動全体を通じて行うために、これらの視点を確実に盛り込んだ展開とよう計画することが必要である。 ・人権同和教育、道徳教育の視点を踏まえた授業を全ての教科および科目で実施する取り組み、引き続き推進していく。
	③良きクラスづくりの推進（学びあう集団・助け合う集団・高めあう集団づくり、宿泊研修の充実）	・すべての学校行事をととして自他を尊重する態度の育成 ・集団宿泊研修、スキー研修をととした自律性を養う指導の充実 ・挨拶やふさわしい言葉遣い、時間や規則を守ることを徹底する ・アンケートQ Uを実施して、結果を効果的に活用する	集団宿泊（1年）、スキー研修などは、良いクラスづくりに効果があると思いますか。	90%	93.9	93.2	A	A	A	・体育祭、収穫祭など学年の枠を超えた学校行事の実施 ・生徒会主催行事の実施（生徒総会、壮行式、球技大会など） ・学年、クラスの連帯感を育成する取り組みの実践 ・学期末の生徒面談や学年集会の実施	・集団の中で個人の役割等を自覚した行動ができた。（学年行事では、サンレイク研修およびスキー研修など） ・生徒会執行部を中心とした取組が全校生徒に浸透した。 ・上級生が下級生を指導し、学校全体としての動きに繋がってきた。 ・アンケートQ-Uの活用に関する教職員研修を実施した。	・学びあう集団、助け合う集団、高めあう集団としての学級経営における宿泊研修の意義を理解し、改善を加えながら取り組んでいく必要がある。 ・各学級の望ましい人間関係を形成し、自治機能を高めるために課題を明確にして、その課題解決に向けた取り組みを実践していく必要がある。
	④生徒会、部活動、農業クラブ、家庭クラブなどの活動を通して生徒の自主的・自治活動の推進	・部活動、生徒会活動等をととして自らを高めようとする取り組みの推進 ・各種委員会活動の改善、充実 ・良好な人間関係の構築に向けた取り組みの強化 ・親しみの持てる「図書館だより」を図書委員と協力して作成する	部活動やクラブ活動、生徒会活動などが活発に行われるような指導体制と環境があると思いますか。	90%	93.2	92.4	A	A	A	・図書委員会による図書館だよりの発行 ・図書委員会による「松江農林高校に関する主な記事」の冊子作成 ・生徒組織による松農発表会での進行（アナウンサーによる技術指導） ・収穫祭での生徒会企画によるステージ発表 ・農業クラブ役員と開放農園利用者との交流会の実施	・図書委員会の年間計画に基づき実施できた。生徒にも内容が好評であった。 ・部活動では、好成績を挙げるなど活性化に各部とも取り組むことができた。 ・生徒自ら企画立案を任されたHR活動の実施などにより学級活動が円滑に行われた。 ・収穫祭では生徒会企画によるステージ発表を実施し、参観した保護者からも好評であった。	・生徒会をはじめ生徒の自主的な活動が見られた。今後一層進めていくためには、委員会活動をさらに活性化させていく必要がある。 ・農業クラブ活動については、クラブ員としての自覚を高めるなどの改善が必要である。 ・顧問の専門性などを考慮し、部活動の精選を行う必要がある。
自主的な学習習慣を身に付けさせることで、社会で通用する学力の基礎を確立させるとともに、個に応じた進路指導を推進する	⑤基礎・基本の確実な定着（知識技能の確実な習得、見通しを立て、振り返りを導入した授業の徹底、読書力の向上、家庭学習の充実、アグリマイスター制度の導入）	・週末課題や各種模試、補習を計画的に実施し、進路に向けた学習意欲を向上させる ・学校図書館活用教育の推進 ・器械・器具を大切に扱い、きちんとした態度で真摯に学習に取り組ませる ・生徒が主体的に取り組めるアグリマイスター制度を導入する	本校ではわかりやすく興味関心の高まる授業が行われていると感じていますか。	90%	87.4	90.3	B	B	A	・徹底した朝読書の実施 ・全教員による小論文指導、面接指導の実施 ・進路別集会の実施 ・図書館活用教育の推進に向けた取り組み ・家庭学習時間調査の実施 ・学習環境の整備	・朝読書が統一して行えるように実施できた。 ・全教員による小論文指導、面接指導を実施し、きめの細かい指導ができた。 ・各定期試験前1週間学習時間調査を実施し、クラス単位での面談等に有効活用してもらえるように呼びかけた。 ・他校の図書館の参観や研究会、研修会への参加を通して図書館活用の情報収集を行った。	・朝読書は継続して実施したが、図書研修部の働きかけなどにより落ち着いて状況が定着した。 ・学力向上に向け、自ら学ぶ、学びあう姿勢を作っていくために各分掌等が連携して取り組む必要がある。 ・やらなくても大丈夫という意識をかえること。 ・全教員による小論文指導、面接指導は継続して実施するが、これらについては系統的に積み上げていく必要がある。
	⑥探求的学習、言語活動の充実（課題研究、総合的な学習の時間、教科・科目でのプロジェクト学習、表現・分析・論述、説明する力・質問する力の育成）	・新入生図書館オリエンテーションを充実させる ・SPIを活用して効果的な活用と対応力の向上 ・教務部および教科担当と連携をとりながら、学習習慣の確立に努め、基礎的な学力の定着・向上を促す	学習活動にしっかり取り組み成長できたと思いますか。	90%	92.2	/	A	A	A	・SPIを活用した学習習慣の定着 ・映像資料を活用した図書館オリエンテーションの実施 ・課題研究、資格取得等における目標達成	・SPIの全課題の提出率は100%であり、取り組みを工夫することで効果があった。 ・各学科で積極的に資格取得に取り組む成果があった。（専門的な資格取得者がのべ300人以上となった）	・成長できたと感じる生徒を増やすこと。日々の授業を基本に、わからなかったことがわかるようになる、できなかったことができるようになる実践を積み上げていくことが必要である。 ・資格取得については生徒に達成感や成就感を持たせ、職業観を育成する意味からも発展的に取り組んでいく。
	⑦教科ごとの到達目標の設定（CAN-DO LIST、一人複数回の授業参観、教科で育てる、力がつく試験問題の作成）	・全教科、全教員対象の生徒による授業評価の実施 ・授業公開週間の実施（一人2回以上の公開と参観を実施する）	本校での遅刻指導や始業時間厳守の取り組みは時間を守る習慣の確立に役立っていますか。	90%	95.1	97.5	A	A	A	・ICT機器活用研修会の実施 ・収穫祭でのプロジェクト学習のミニ発表会の実施 ・1年生では、終礼時に3分間スピーチの実施 ・総合学科全国大会での公開授業において「産業社会と人間」（1年生）が発表会を実施 ・教員自らによる授業開始時間の厳守	・教育センターの出席講座を利用し研修会を実施することができた。その効果もあり、ICT機器を活用する授業を実施した教員が15名に増えた。 ・ライフプランの発表では、原稿を見ずにできる生徒や時間内に発表できる生徒がほとんどであった。 ・3年生では、課題研究の提出期限を守る生徒が85%であり内容とともに意識も向上した。	・ICT機器の充実（台数の確保）が望まれる。 ・ライフプランやプロジェクト学習など発表に対する苦手意識を払拭させ、校内にとどまらず校外でも発表できるような力を付けることが必要である。 ・校外の関係団体や事業所と連携した取り組みや発表が必要である。 ・専門教科では、新技術や新品種など研修の機会を持つことが重要である。
	⑧実験・実習及び体験的学習の場の充実（身につけた知識・技能の活用、報告書・レポート指導）	・授業、実験実習記録簿を毎週提出 ・作文コンテストなどへの参加による表現力の向上 ・資格試験に意欲を持って取り組ませる	校外学習や体験的な学習は、知識や技能の習得、物事に対する考え方の確立に役立っていますか。	95%	97.5	99.0	A	A	A	・地元企業等と連携した企業見学、職場体験の実施 ・地域クリエイトの校外学習による地元文化、産業等の理解促進 ・各種作文コンテスト等への積極的な参加	・各学科、各系列で計画的に実践できた。 ・特に、地域クリエイト系列では本年度校外学習を新たに展開し、外部講師の協力を得ながら推進した。（年間18回の校外学習を行った） ・各種作文コンテスト等への積極的な参加	・報告書、レポート、感想文等生徒の文章力を高める指導は継続的にを行い、さらに充実を図っていく必要がある。 ・各科とも課題研究の充実を図っていくことが今後重要である。
				80%	82.6	85.0	A	A	A	・よりよい授業づくりのための授業評価アンケートの実施 ・一人2回以上の授業公開、授業参観の実施 ・定期的な会合の開催（総合学科運営、総合学科会、学年会等）	・授業評価アンケートを実施し、管理職との中間面接で結果の分析や今後の課題等を検討した。 ・10月に1人2回以上の授業公開と授業参観を実施した。 ・定期的な会合の他、各職員室での授業の進め方や生徒の反応、有効な教材などについて意見交換し授業改善に努めた。	・教科ごとの到達目標は、生徒の実態を踏まえた目標設定、評価を行うことが必要である。 ・授業公開、授業評価は継続して実施し、改善すべきところは改善するという問題解決への積極性や柔軟性が必要である。 ・授業においては、見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動を計画的に取り入れること。 ・すべての学科、すべての教科でシラバスを作成し、生徒、保護者に公表すること。

経営目標	重点目標	目標達成のための方策	評価指標 【アンケート項目】	目標値	アンケート結果			教員 評価	外部 評価	主な取り組み	達成状況	今後の方向性、課題及び改善策
				育定期的 評価割合	生徒 (%)	保護者 (%)	総合 評価					
自主的な学習 習慣を身に着 けさせること で、社会で通 用する学力の 基礎を確立さ せるとともに、 個に応じた進 路指導を推進 する。	⑨キャリア教育の推 進（系統的・組織 的な推進、企業 との連携強化、 インターンシッ プの改善、高等 学校基礎学力テ スト等への対応）	・インターンシップを通して、職 業意識を高め将来の進路希望を明 確にする ・高等学校基礎学力テスト、大学 入学者選抜改革に関する情報収集 を意欲的に行う。 ・キャリア教育年間指導計画の作 成と目標設定 ・卒業生を講師とした進路学習会 の企画	インターンシップや校 外研修などの取り 組みは成長に役立 っていますか。	95%	97.7	97.2	A	A	A	・年3回の美化活動の工夫改善 ・FINE SYSTEMの導入 ・基礎学力向上に向けての研修会への 参加 ・外部講師による進路学習、進路ガイ ダンスの実施 ・上級学校への進学者の動向調査 ・4日間のインターンシップの実施	・保健部を中心に勤労、社会奉仕の精神、助け合いの精 神を涵養するために美化活動を実施し、取り組みは昨年 度より向上した。 ・卒業生による講演会を実施した。 ・生徒の進路希望に応じた進路学習会を実施した。 ・2年生が4日間のインターンシップを実施し、報告書の 作成や発表会を行った。	・キャリア教育の推進にあたっては、単に進路指導部や 農場部の取り組みや、イベントを実施するという取り組 みだけでなく、学校の教育活動全般にわたって取り組 んでいく必要がある。 ・全体計画のもと、学科、学年における年間指導計画 を作成し、組織的、系統的に進めていくこと。
		・資格試験に積極的に取り組ませ る仕組みの構築 ・資格取得を社会性、職業間の育 成の向上につなげる ・科学的に実践する態度を育成で きる資格取得の取り組み推進	資格試験に積極的に取 り組む指導体制が整 っていますか。	90%	90.6	89.6	A	B	A	・簿記検定、農業技術検定、危険物取 扱者、測量士補、レタリング、介護職 員初任者研修など専門性を深める資格 取得の推進 ・漢字検定、数学検定、英語検定等の 実施 ・資格取得に向けた補習の実施	・資格取得状況【（ ）内は人数】 農業技術検定3級（23）危険物取扱者乙4（3）、測量士 補（9）、レタリング2級（2）、3級（23）、2級土木施工 （3）、初級バイオ技術検定（7）、漢検2級（1）準2級 （27）、数検3級（13）、被服3級（1）、食物調理2級 （0）、3級（6）、保育3級（4）、介護職員初任者（11）	・資格取得者数の増減が多少見られるが、新たな資格へ の取り組みが見られた。今後も生徒の興味や関心、進路 保証へも繋がることから研究が必要である。
	⑩個々の生徒の適正 に即した進路開拓 （全教員による企業 訪問、面接・小論文 指導の充実、情報共 有）	・全教員による企業訪問の実施 ・進学を中心とした進路情報の収 集 ・教員間保護者との積極的な情報 交換の推進 ・定期的な担任会を開催し、情報 の収集と共有を図る	進路を実現するた めに十分な指導、情報提供 がなされていますか。	90%	91.3	88.4	A	B	A	・全教員による就職先企業への訪問に よる求人開拓と企業理解を進める ・地域別企業説明会への参加 ・綿密な生徒、保護者との話し合い、 面談 ・3年生が伝える進路体験記作成	・全教員による企業訪問を実施した。 ・県内求人数が増加、就職内定率が例年と比べ上昇 （92%1月末）するなど、成果が上がった。 ・進学者合格率100%など、個々の生徒に適した対応を 行い、就職、進学ともに成果をあげている。 ・進路体験記は3年生全員が書いた。	・全教員による企業訪問は継続して実施し、企業の情報 や求める人材を把握し、将来の社会人、職業人として活 躍できるよう生徒指導にあたるのが重要である。 ・進学先の情報収集等を学校訪問を含めて積極的に行っ ていくことが必要である。
	⑪進学後の実態把握 （実績のある学校へ の訪問及び調査）	・卒業生の動静について、その実 態把握に努める ・入試情報の収集 ・個別指導の充実								・過去4年間に卒業した生徒全員の動 静について把握し、報告できた。	・企業訪問、就職説明会の機会を使っ て、卒業生の就職 活動について情報を収集した。	・過去4年間に限ると90%以上の動静を確認でき たが、離職が重なり実態把握が難しい。 ・国公立大学受験の機会を増やす方策を考えることが 必要である。
保護者や関係 団体との連携 を深め地域に 開かれた信頼 される学校づ くりを推進す る。	⑫特別支援教育の推 進（特別支援教育委 員会の支援体制の構 築、支援計画の作 成）	・保護者や出身中学校と連携して 生徒の個別具体的な情報を把握し 、支援計画を作成する ・教員相互の情報共有、分掌間の 連携 ・教育相談機能の充実とSCの効 果的な活用	悩みを抱えたり相談し たいことが生じたとき に、学校は誠実な対応 をしてくれる場になっ ていますか。	80%	86.3	90.9	A	A	A	・特別な支援を必要とする生徒の情報 と支援計画の作成 ・生徒支援のために早急な対応とケ ース会議の充実 ・学期末における生徒面談週間の実施 ・特別支援コーディネータを中心と した支援体制の確立	・出身中学校および保護者と連携して生徒の特別具体的 な状況を把握した。 ・職員会議において情報の共有を図った。 ・担任一人が抱え込まないよう情報交換が緊密にでき た。 ・学期末における面談が計画的に実施できた。 ・特別支援教育に関する教職員研修を実施した。 ・学期に1回、特別支援教育委員会を実施した。	・年度当初に特別な支援が必要な生徒、配慮が必要な生 徒等の中学校からの引き継ぎを確実にこなし、教員の共 通理解のもと、適切な支援ができる体制整備と指導内 容、指導方法を検討すること。 ・障がいのある生徒については個別の指導計画、個別の 支援計画を関係機関と連携し作成し、計画的・組織的に 取り組むこと。 ・教育相談機能は、速やかに対応できる体制を継続して いくことが必要である。
		・ボランティア活動の単位化につ いて、全校生徒に周知 ・自主的活動（部活動・生徒会活 動・ボランティア活動）を通して 自らを高め、他者を大切にす る態度を育成 ・ボランティア体験を1回以上行 わせ、更に記録にまとめるなど充 実を図る	学校が企画するボラン ティア活動または社会 活動としてのボラン ティアに積極的に参加 していますか。	50%	51.9	66.8	A	A	A	・学校紹介のボランティア活動につ いては、要請があった団体を生徒に照 会し、希望者を募る ・福祉系列2,3年はボランティア体験 を1回以上行わせ体験記録を作成す る ・生徒指導部を主管として、ボラ ンティア体験の呼びかけ	・学校紹介（生徒指導部紹介）のボ ランティアは21カ所 のボランティアを紹介し、延べ約 140名が参加した。 （サンレイク、松江医療センター、 長命園、みのり保育園など） ・福祉系列では2年生に対しボラ ンティア体験を実施した。 ・2年学年会によるアンケートでは、 約1/3の生徒がボランティア活 動を行っている。	・アンケートの評価項目では最も評価の低いところ であるが、生徒の関心が高くなっ ている。今後、学校の教育活 動全体の中に位置づけて、単 位化とあわせながら継続 的に指導していく必要がある。 ・学校紹介によるボランティア 活動の参加は、今後も発 展的に継続していく。
	⑭地域と連携活動の 推進（学科・系列 の特色を生かした連携 事業の推進、収穫祭 で新しい企画、松農 発表会の改善）	・松農発表会を充実した成果発表 の場とする ・新たな製品や生産物で地域と連 携した取り組みを強化（要請に応 じた商品開発等） ・課題研究を通して校外での活 動を行い、地域貢献できる生徒 の育成を図る	収穫祭、地域イベント 参加などの地域貢献活 動を通して地域に根差 している学校ですか。	95%	98.4	98.2	A	A	A	・松農発表会の実施に当たり、司 会者、発表者の事前研修会を 実施する ・各学期において産官学連携事 業の実施 ・松江市菊花展、まつえランド、 だんだん宮農塾への出品と参 加（生物生産科） ・食の縁結び甲子園出場（食 品系列） ・地域産業や地域環境に関 する校外学 ・PTA地区部会の開催の工夫 による参加者の増加 ・「PTA活動の日」にお ける保護者参加の取 組みを充実させる。（新 企画の実施） ・PTA便りの紙面の充 実	・松農発表会は、荒天により延期し 校内での発表会とな ったが事前研修を生か し、生徒による運営が 評価できた。 ・収穫祭は雨天にもか かわらず、多くの来 場者であったことと、 駐車場の対応が高く 評価された。 ・食品系列では、企 業と連携して販売が できた。 ・生物生産科では、 田植えや稲刈り、野 菜栽培などを地域 の保育園と交流しな がら実施できた。 ・開放農園、販売実 習等による連携は計 画通りできた。	・地域との連携や外部 団体との連携による 教育効果は高く、積 極的に行っていく必 要があるが、生徒や 教員の加重負担にな らないよう計画的・ 組織的に行うことが 重要である。
	⑮PTA活動の充実 （PTA活動の日の 改革、地区PTAの 在り方）	・PTA活動を充実させ、保護 者から信頼される学校 づくりを推進する	学校の発信する情報 がきちんと伝わり、活 発なPTA活動ができ ていますか。	80%	84.2	73.9	A	B	A	・PTA地区部会の開催の工夫 による参加者の増加 ・「PTA活動の日」にお ける保護者参加の取 組みを充実させる。（新 企画の実施） ・PTA便りの紙面の充 実	・現地開催（宍道、雲南、安来） 以外は4地区にまと め、学校開催とした。 7地区で開催し参加 者は、昨年とほぼ同 数であった。 ・「PTA活動の日」と して、スリッパ卓球 大会を実施した。参 加者34名（親睦を深 める企画としては盛 り上がった。） ・PTA便りは、カラ ー刷りとなったうえ に写真が多く編集 され、読みやすいも のとなった。	・PTA活動については、 それぞれの活動に対 し参加者を増やすこ とが最大の課題であ る。この解決に向け 、ホームページによ る案内などの工夫に よって、情報が確 実に伝わるような改 善が求められる。 ・学校からの連絡、 便りを見ていない保 護者も少なくないこ とから、改善策を検 討する必要がある。
⑯広報活動の充実 （学校説明会の改 善・充実、ホーム ページの更新、学 級・学年通信の充 実と公開）	・ホームページの有効利用 ・学校行事の報道発表 ・中学校及び地域へ の発信（進路情 報、農業クラブ、 各学科や系列の 活動）	本校のホームページ、 学校便りは充実した ものになっていますか。	80%		91.6		A	A	・更新方法を全教職員へ周知 ・保健情報の発信 ・図書館のPR活動の 活性化 ・生徒活動の掲載 ・各学科の学習活動 の情報発信	・HPの更新回数が増 加しそれに伴い、ア クセス数も増加し た。（校長だより7 4号、3月上旬） ・収穫祭、学習発表 会等の報道発表を 実施した。 ・図書館便りの掲載 など委員会の掲載 も活発であった。	・ホームページを積 極的に更新できる 校内体制がほぼ構 築できたので、継 続して情報発信す ること。 ・危機管理面から も保護者に対し、 学校の緊急情報が 速やかに伝わるよ う今後も活用す ること。	
学校満足後	松江農林高校に進学して（進学させて）良かったですか			90%	95.5	97.0	A	A				
	施設管理や緊急時の対応など学校安全への取り組みは適切に行われていますか			90%	97.8	95.3	A	A				
	本校は、元気に気持ちよく過ごせる（お子様が過ごせる）学校だと思いますか			90%	96.0	97.0	A	A				
	松江農林高校の教育活動に満足していますか			90%	95.1	93.9	A	A				